

## 編集後記

毎号の編集を通じて社内の多様な技術に触れることができるこの仕事は、私にとって非常に刺激的であり、学びの多い時間となっています。普段は自事業所の技術に関わることが多いのですが、本技報を通じて他事業所の取り組みや工夫に触れることで、当社の技術力の広がりや奥深さを実感しています。開発・設計現場や製造現場で培われた技術には、それぞれの背景や課題、そして技術者の熱意が込められており、読むたびに新たな発見があります。本技報が、お読みになる皆様にとって技術への理解と関心を深めるきっかけとなり、社内外の技術交流の一助となれば幸いです。

(周防委員)

世界情勢は目まぐるしく変化し、企業は生き残りをかけ革新的な技術やサービスを駆使してより便利で快適な生活の提供に努めている。日本国内においては、災害級の猛暑や数十年に一度の大雨の報道が頻発し、異常事態であることを実感する。これを食い止めるため、カーボンニュートラル活動を通じて社会貢献をすることは企業としての当然の責務である。しかしこれだけではなく、この暑さに負けない情熱と信頼できる技術をもって、人々の暮らしを安全・快適にする技術や製品を提供し、社会に貢献する企業として成長するために、カヤバ技報がそれを支える一端を担う存在でありたいと考える。

(神谷委員)

奈良の大仏の高さは16m、総重量380tonの世界最大の青銅製鋳物である。約1,300年前にこの巨大な鋳物をつくった先人の偉業には、鋳造に携わるものとして感服する。鋳物作業は2年で終了したが、引け巣や湯回り不良などの対策に5年の歳月を費やしたそう。鋳物不良の事象を正確にとらえ、手を打ち、それを維持する仕組みを講ずることは小生の使命であると思っている。原因さえつかめば、対策することはそれほど難しくはない。しかし、鋳物は固体→液体→固体と変態を伴う過程で様々な影響を受けるため、原因すらつかむことが一筋縄ではいかない。あえて不良現象を再現させてみせることができれば、おのずと対策は打てるはずである。若手鋳造技術者には、そのような経験をたくさん積ませていきたい。

(杉村委員)

## 編集委員

◎伊藤 隆	技術本部基盤技術研究所	神谷 悟弘	HC事業本部技術統轄部
高松 伸一	技術本部基盤技術研究所	米川 典秀	HC事業本部技術統轄部
小倉 翔吾	技術本部生産技術研究所	杉村 宗弘	HC事業本部技術統轄部
周防 士朗	技術本部知的財産部	吉村 光明	航空機器事業部技術部
天野 玄規	経営企画本部経営企画部	石黒 久栄	特装車両事業部熊谷工場技術部
太田 康洋	AC事業本部技術統轄部	松久 隆司	カヤバモーターサイクルサスペンション(株)
宮谷 修	AC事業本部技術統轄部	河野 義彦	(株)タカコ技術本部開発部
渡辺 浩司	AC事業本部MD事業部	○小畑 宏	技術本部技術企画部
野口 洋一	AC事業本部MD事業部	○大林 義博	技術本部技術企画部
齊藤 靖	HC事業本部技術統轄部		

◎編集委員長

○編集事務局

AC事業本部：オートモーティブコンポーネンツ事業本部

HC事業本部：ハイドロリックコンポーネンツ事業本部

MD事業部：車載機器事業部

### カヤバ技報 第71号

〔禁無断転載〕 〔非売品〕

発行

2025年10月1日

編集発行人

カヤバ技報編集委員会

発行所

カヤバ株式会社

(2023年10月1日より、正式社名に

カヤバ株式会社を採用いたしました)

〒105-5128

東京都港区浜松町二丁目4番1号

世界貿易センタービルディング南館28階

電話 03-3435-3511

FAX 03-3436-6759

印刷所

勝美印刷株式会社/東京・白山

### ホームページへの掲載のお知らせ

日頃、カヤバ技報をご愛読いただきありがとうございます。第50号(2015年4月発行)から、より多くの方々にご覧いただくことを目的とし、弊社ホームページへの掲載を行っております。是非ご利用下さい。

なお、冊子の発行は従来通り行ないますので、こちらをあわせてご利用下さい。

〈カヤバのホームページアドレス〉

<https://www.kyb.co.jp/>

(トップ画面からカヤバ技報バナーをクリックして下さい)